

畸形性胸椎炎ニヨル胸部中央陰影 ノ異常隆起ニ就テ

金澤醫科大學理學の診療科教室 (主任平松助教授)

專 攻 生 中 西 一 夫

Kazuo Nakanishi

(昭和15年6月14日受附)

内 容 抄 録

69歳男子食道癌患者ニ於テ、「レ線胸部矢狀面寫眞撮影セル所、胸骨上部右縁ニ發現セル悪性腫瘍乃至肺門淋巴腺腫或ハ氣管淋巴腺腫ニ紛ラハシキ異常陰影ヲ認メタリ。依テ更ニ是ヲ精査セルニ、畸形性胸椎炎ニ因ル骨瘤ノ投影セルモノナリキ。文獻ニ徴スルモ未ダ

斯ノ如キ報告ハ皆無ニシテ成書ニモ記載セラル、事少キニ鑑ミ、特ニ胸部「レ線像ノ解讀ニ際シテハ該陰影ニ對スル注意ヲ喚起シ、且ソノ鑑別方法ニツキ述ベタリ。

目 次

- | | |
|--------|--------|
| 1. 緒 言 | 4. 結 語 |
| 2. 臨床例 | 5. 文 獻 |
| 3. 考 按 | 附 圖 |

1. 緒 言

「レ線寫眞ハ診斷及ビ治療ニ對シ有カナル根據ヲ提供スルヲ以テソノ讀影ハ最モ慎重且細心ニ行ハザルベカラズ。特ニ胸部寫眞ニ於テハ微細ト雖モ忽ニスペカラザルハ先人諸家ノ教フル所ナリ。就中縦隔竇及ビソノ附近ハソノ構造乃至解剖的關係ハ甚グ複雑ニシテ該部疾患ノ診斷特ニ早期診斷ハ頗ル困難ナル事多ク、此際「レ線ニ因ル診斷法ハ殆ンド唯一ノ精確ナル根據ヲ提供スルモノナリ。然レドモ「レ線寫眞特ニ普通ノ矢狀方向像ニテハ各種臟器ガ胸骨、肋骨、脊柱ト相重リテ同一フィルム上ニ投影シ所謂 Mittelschatten ヲ形成シ、ソノ鑑別診斷ハ容易ナ

ラス。

一方縦隔竇周邊部殊ニ上部胸骨右縁ニ於テハ種々ノ原因ニヨリ屢々均等ナル異常陰影ヲ呈スル例ヲ見ルモ、該陰影ハ往々ニシテ等閑視サレ、又ハカ、ル陰影ガ如何ナル病變ニ基因スルヤニ就テハ是ヲ鑑別スベキ確然タル據點ニ乏シク屢々疑診ニ止ル事アリ。

然ルニ最近ニ於ケル「レ線診斷學ノ著シキ發達ニヨリ斯ノ疑問ハ漸次解明セラレツ、アリ。

余ハ最近右ノ如キ陰影ガ畸形性脊椎炎ニヨリテ發現セル一例ニ遭遇シタリ。カ、ル例ハ成書ニモ記載少ク、本邦ニテハ報告皆無ナルニ鑑

ミ、胸部中央陰影ノ解讀ニ際シ注意ヲ喚起スルト共ニ、ソノ各種鑑別診斷法ニツキ述ベントス。

2. 臨 床 例

患者 村島某男，69歳，農業。
病名 食道癌及ビ畸形性脊椎炎。
家族歴 特記スベキモノナシ。
既往歴 生來健康ナリト。

現病歴 約1ヶ月前ヨリ何等ノ誘因ナクシテ嚥下困難ヲ訴ヘ、數日來攝食不能ニ陥ル。脊柱ニ關シテハ從來全ク自覺症狀ナシ。

臨牀の所見

患者ハ體格中等顔貌正常ナルモ羸瘦シ、眼瞼結膜程度ニ貧血樣ヲ呈セリ。口腔、咽頭ニ異常ナシ。頭部及ビ鎖骨上窩ニ於テ格別ノ腫癢ヲ觸レズ。胸部打診聽診ニ於テ異常ナシ。腹部ヲ觸診スルモ異常ヲ認メズ、脊柱ハ異常彎曲ヲ認メザルモ全般ニ強直ノ傾向ヲ示セリ。

レントゲンの所見

患者ノ「レ線透視ヲ行フニ、先ヅ胸部ノ矢狀方向透視ニ於テハ、(第1圖)心臟形態ハ正常ナルモ大動脈ハ著シク硬化ノ状態ヲ示シ、陰影ノ増強ト延長及ビ隆起ヲ現セリ。肺野ニ於テハ老年性ノ肺紋理増強ト肺氣腫

ノ像ヲ認メシメタリ。然ルニ中央陰影ノ右縁ニ於テ上行大動脈弓ノ上部ヨリ鎖骨ノ高サニ亘リ、中央陰影ノ右側ニ接シ3個ノ瘤狀分割ヲ示セル略々均等ナル邊縁銳利ノ濃陰影ヲ見出セリ。之ハ恰モ惡性腫瘍乃至石灰化セル淋巴腺腫ニ酷似セルヲ以テ、更ニ注意深ク患者ノ體位ヲ第1斜位方向ニ回轉セシメツ、觀察スルニ、該陰影ハ胸骨、大動脈、氣管等ノ縱隔竇臟器ト分離シ、該部ノ胸椎ト全ク同一ノ移動回轉ヲナス事ヲ知レリ。依テ脊椎「レ線寫眞ヲ撮影セルニ第2圖ノ如キ像ヲ得タリ。即チ脊柱ハ第4, 5, 6, 胸椎ニ於テ輕度ニ右側ヘ側彎ス。椎間腔ハ何レモ狹少トナリ、特ニ第5, 6胸椎間ニ於テ著シク殆ンド消失ス。椎體ハ何レモ高サヲ減ジ、第6胸椎ハ著シク壓平サル。各椎體邊縁ヨリ嘴狀乃至唇狀ノ骨増殖像ヲ認メ、第4, 5, 6椎體間ニテハ特ニ増殖骨質ハ腫瘤狀トナリ、各椎體間ヲ連結ス。其他椎間組織ノ石灰化著明ナリ。斯ノ如キ著シキ畸形性脊椎炎ニヨル骨瘤ニヨリテ、Mittelschattenニ於ル異常陰影ヲ生ジ、之ガ肺野ニ隆起セルモノナル事ヲ明カニシ得タリ。

3. 考 按

畸形性脊椎炎ハ珍奇ナルモノニ非ズ、所謂老衰性現象ニ屬シ、Willis⁽¹¹⁾、浪越⁽¹²⁾、矢原⁽¹³⁾諸氏ニ依レバ殆ンド毎常高齢者ニ於テハ認メラレ、ソノ診斷ハ特有ナル「レ線像即チ椎體邊縁ニ於ル骨ノ唇狀乃至嘴狀ノ増殖、更ニ橋狀ノ上下椎體ノ連結、椎間腔ノ狹少、椎體ノ高サノ減少、變性椎間組織ノ石灰化、椎間遊離像形成等ニヨリテ容易ナリ。而シテカ、ル畸形性變化ガ存シツ、モ屢々臨牀上無症狀ニ經過スル事アルハ、Assmann⁽¹⁴⁾、齋藤⁽¹⁵⁾、碓居⁽¹⁶⁾、矢原⁽¹⁷⁾諸氏ノ報告スル所ナリ。

一方胸部中央陰影ハ胸骨、肋骨、椎間ニ挾マレ前部ハ心臟、大動脈、氣管、各種淋巴腺、胸腺、後部ハ食道、下行大動脈、胸水管、無名靜脈、迷走神經、橫隔膜神經等重要ナル臟器組

織ヲ含メル縱隔竇ノ重複投影像ニシテ、ソノ陰影中ヨリ該部病變ノ所屬ヲ鑑別スル事ハ至難ナル事多シ。而シテ是ノ中央陰影ノ異常變形ヲ來スベキ疾患トシテ、Assmann⁽¹⁴⁾、Schinz⁽¹⁸⁾、Chaoul⁽¹⁹⁾、Lenk⁽²⁰⁾、小池⁽²¹⁾、岩崎⁽²²⁾各氏ノ舉グル所ハ主ニ次ノ如シ。

1. 胸骨後部甲狀腺腫
2. 胸腺肥大乃至胸腺腫
3. 縱隔竇皮樣囊腫
4. 縱隔竇炎及ビ縱隔竇肋膜炎
5. 縱隔竇腫瘍
6. 動脈瘤
7. 淋巴肉芽腫及ビ各種惡性腫瘍轉移
8. 特發性食道擴張症
9. 縱隔竇血腫乃至氣腫

10. 副脊椎部下垂膿瘍
11. 肺門腺腫, 氣管及ビ氣管分岐部淋巴腺腫
特ニ石灰化セルモノ
12. 其他脊椎, 脊髓ノ腫瘍
13. 稀ニ奇靜脈像

是等ノ鑑別ハ單ナル「レ線寫眞」ノミニテハ困難ナル事多キモ, 一般ニ縱隔竇陰影ノ解讀原則トシテハ次ノ諸點ヲ必要トス. 即チ Lenk⁽⁶⁾, 岩崎⁽¹³⁾ 兩氏ニヨレバ

1. 陰影ノ輪廓
2. 大キサ
3. 濃淡度
4. 陰影ノ構造
5. 境界ノ尖銳度
6. 運動性乃至搏動性ノ如何
7. 位置
8. 深サ
9. 近接臟器トノ關係
10. 對稱性

ノ諸點ヲ参照ス. 更ニ以上ノ方法及ビ單純撮影ノミニテハ不充ナル事多キヲ以テ, 一層進歩セル次ノ如キ特殊「レ線診斷法」ヲ應用シテソノ完全ヲ期スルニ至レリ. ソレハ

1. 管球移動透視法
2. 患者回轉透視法及ビ撮影法
3. 重複撮影法ニヨル深サノ測定
4. トモグラフィ
5. キモグラフィ
6. 造影劑注入撮影法
7. 試驗的「レ線放射法

等ニシテ, 是等ノ各種ヲ驅使スル事ニヨリ, 慎重ナル臨牀的諸檢査ト相俟チテ, 胸部中央陰影ノ異變ヲ殆ド剩ス所ナク解明シ得ルニ至レリ.

然ルニ脊柱自體ノ中央陰影ニ及ボス影響ニ關シテハ, 諸家ノ記載ハ甚ダ少ク, 僅ニ Amelung⁽²⁾, Zdansky⁽¹²⁾, Lenk⁽⁷⁾ニ止ル. Amelungハ脊柱彎曲ニオケル胸部臟器ノ「レ線像變化」主トシテ肺陰影ニ關シ報告シ, Zdanskyハ脊柱側彎症ニ於テハ輕度乍ラモ Mittelschattenハ縱隔竇ノ移動ニツレテ, 彎曲ノ凹側ハ移動スル事ヲ認メタリ. Lenkハ縱隔竇疾患ニツキ, 精細ナル「レ線學的記載」ヲナセルガ, 脊柱側彎ノ際ハ Mittelschattenノ幅ハ擴大シテ恰モ縱隔竇疾患ノ如キ像ヲ呈シ, 更ニ強直性脊椎炎ガ合併スレバ, 縱隔竇腺腫ト誤リ易キ像ヲ呈シ, ソノ廣キ脊椎骨増殖ニヨリテ脊柱緣ハ波狀ノ陰影ヲ示スト雖モ, 患者ヲ回轉シツ、透視ヲ行フ事ニヨリ, 斯ノ疑問ハ氷解シ, 脊椎ノ變化ヲ見出し得ベシト注意シタリ.

余ノ例ノ如キハ上記 Lenkノ症例トハ多少異ナリ, 畸形性脊椎炎ノ骨増殖ニヨル中央陰影ノ腫瘤狀隆起ニシテ臨牀上甚ダ興味アルト共ニ, ソノ「レ線寫眞解讀」際ニシテハ慎重ヲ要シ, 前記ノ注意ヲ守ルベキ事ヲ教フルモノト謂フベシ.

本症例ノ如キハ從來報告ヲ見ザル所, ヤ、類似ノモノトシテハ, 上記例ノ外ニ Polgar⁽⁸⁾, Haenisch⁽⁹⁾, Bernstein⁽³⁾, Stehr⁽¹⁰⁾, 早野⁽¹¹⁾諸氏ニヨル肺尖部ニ現ル、肋橫關節畸形性關節炎ニ關スルモノアリ. 即チ肋骨, 脊椎橫突起關節ニオケル畸形性變化ニ因ル骨増殖ハ肺尖部病變ノ誤診ヲ招キ易ク, 肺病竈ノ石灰化セルモノト混同セザル様注意ヲ喚起シアリ.

何レニセヨ骨, 關節ノ變化ニヨル胸部ノ異常陰影ニ對シテハ, ソノ誤診ニ陥リ易キ點多ク, 臨牀家ノ留意スベキ事ナリト思惟ス.

4. 結 語

1) 余ハ59歳男子食道癌患者ニ於ル胸部中央陰影ニ於テ異常陰影ヲ認メ, 精査ノ結果是ガ畸形性脊椎炎ニ因ルモノナルヲ確メタリ.

2) 右ハ縱隔竇疾患ノ「レ線鑑別診斷」上甚ダ注意スベキ點ニシテ從來報告セラレザル所, 肺野ニ隆起セル胸部中央陰影ノ讀解ニ際シ慎重ヲ

要スル事ヲ教フルナリ。

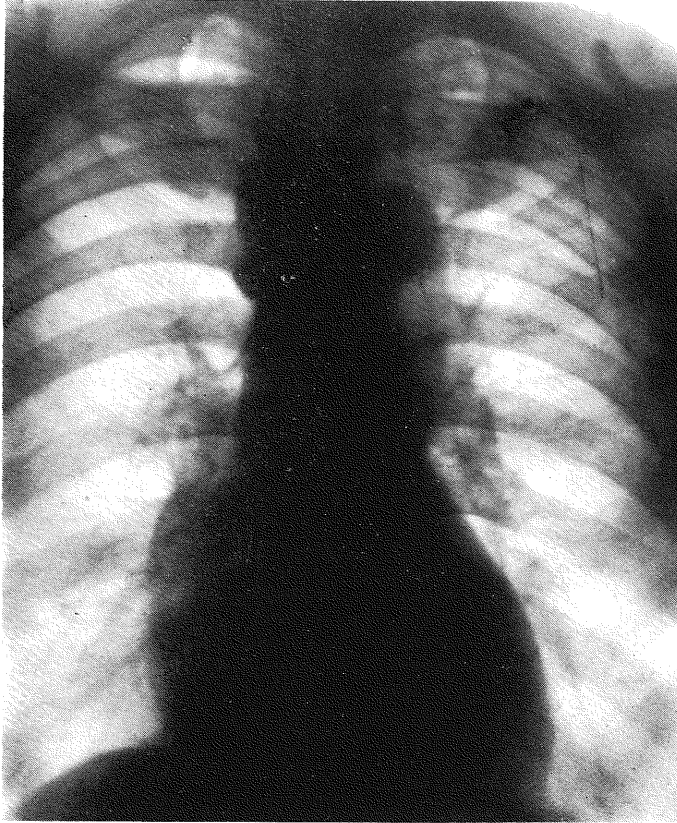
稿ヲ終ルニ臨ミ御指導並ニ御校閲ヲ賜リタル平
松助教授ニ深謝ス。

文 獻

- 1) **Assmann**: Klinische Roentgen Diagnostik d. inn. Erkrankungen, 5 Aufl. 2) **Amelung**: Fortsch. a d. G. Roentgenstr. Bd. 28, S. 230, 1922. 3) **Bernstein**: Langenbeck Archiv f. kl. Chir. Bd. 141, S. 419, 1926. 4) **Chaoul**, Kl. Roentgendiagnostik d. Erkrankungen d. Brustorgane 1929. 5) **Haenisch**: Fortsch. Roentg. Bd. 33, S. 677, 1925. 6) **Lenk**: Fort. Roentg. Bd. 48, H. 6, 1933. 7) **Lenk**: Handbuch d. Roentgenkunde I, Bd. S. 345, 1929. 8) **Polgar**: Fortsch. Roentg. Bd. 32, S. 243, 1924. 9) **Schinz, Baensch, Friedl**, Lehrbuch d. Roentgendiag. II, Bd. 3 Aufl. 10) **Stehr**: Roentgenpraxis 9. Jg. S. 73, 1937. 11) **Willis**: zit. n. Namikosi. 12) **Zdansky**: Wien. Roentgenges. Sitzg 5. Juni. 1928. 13) **岩崎秀之, 志賀達雄**, グレンツゲビート, 12年2號, 187. 14) **小池オー**, 日新治療, 165, 166號. 15) **碓居龍木**, 診断及治療, 15卷, 7號. 16) **齋藤章**, 東北醫學會雜誌, 21卷, 6號, 699. 17) **矢原直**, 十全會雜誌, 44卷, 11號, 3500. 18) **浪越康夫**, 日本整形外科學會雜誌, 2卷, 183頁. 19) **早野常雄**, 日本レントゲン學會雜誌, 4卷, 2號, 211頁.

中 西 論 文 附 圖

第 1 圖



第 2 圖

